

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く⑧

粕渕辰次さんの考古資料

— まいばらの先人⑧ —

高溝遺跡

天野川が、伊吹山・霊仙山系の山間部を抜けて、まさに琵琶湖に注ぐうとする右岸に高溝遺跡があります。天野川や土川・琵琶田川の堆積作用による自然堤防上の微高地に営まれた遺跡で、現在でも高溝や顔戸の集落が立地しています。

この遺跡は、縄文時代から平安時代までの長期におよぶ遺跡で、周辺にも多くの遺跡があります。これまでの発掘調査ではさまざまな時代の遺構（生活の痕跡）や遺物（土器や石器）が見つかっています。米原最古級の縄文時代早期の土器。弥生時代の首長のお墓。たくさんのお墓が出土した狐塚5号墳（六世紀初頭）などの古墳群。白鳳時代（七世紀後半）の法勝寺跡。そしてこれらに伴う古墳時代から奈良・平安時代の大集落跡と、古代の土地区画（条里）。

さらに、古代の官道・東山道（江戸時代の中山道）と琵琶湖や内湖の湊が隣接して、東海・北陸と近畿を結ぶ物資の集散地として、古代豪族息長氏を支えた地域です。高溝遺跡と周辺の遺跡群は米原市の歴史解明に欠くことができない遺跡群なのです。

桜が満開になるころ、高溝の故粕渕辰次さん（明治三六年〜平成八年）が永年大切に保存されてきた考古資料が米原市教育委員会に寄託されました。粕渕さんは、高溝を中心に農作業や工事等で偶然出土した土器や石器の収集と保存に尽力されました。

垂涎の考古資料

収集された出土品は、八つの自作の木箱やガラスケースに大切に保存されていました。その中をさらに細かく区切って、種類ごとに分類して、丁寧に一点一点が糸で留められています。さらに、採集した場所や年月

日、それがいつの時代の何なのか、小さな紙で張り付けられています。散逸を防ぎ、誰でもが観察できるようにして、詳細な記録を残されています。このほかにも、所有される畑に「白鳳時代 法勝寺跡」の石碑を建てられています。収集・保管に対する熱意、専門家を交えた出土品の研究、公開や啓発活動など、今日では各地で取り組まれている埋蔵文化財の保護活動が、すでに米原の地で粕渕さんによっておこなわれていました。ぎつしりと採集品が詰まった木箱からは、地域を愛し、ふるさとの歴史を探究し、その啓発に取り組みました粕渕さんの思いがひしひしと伝わり、身が引き締まる思いでお待ちしております。

木箱の中を少し見てみましょう。いずれも垂涎の考古資料です。高溝での採集品のほか、入江内湖の干拓地や長浜市、大中の湖などでの採集品もあります。採集年は昭和一二年が最も古く、昭和一三年に湖北で初めての発掘調査を杉澤でおこなった京都大学の小林行雄氏の鑑定や、同志社大学森浩一氏などの書簡があり、日本を代表する考古学者との交流もありました。資料は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・古瓦・石器・金属器・骨

角器など多彩です。刃の部分だけが磨かれた旧石器時代末から縄文時代草創期の局部磨製石斧は県内でも最古級の石斧だと考えられます。縄文時代の細い磨製石斧は県下では少ない北陸系のもの、大型で完品の皮剥ぎ具（石匙）も、滋賀県内では見られない石材で、中部地方から持ち込まれたものかもしれません。ひとつひとつが、米原の歴史と特徴を物語る資料です。教育委員会では、これから資料の整理をおこない、記録を作成し、皆さんにご覧いただく機会をもちたいと考えています。

参考：『息長氏論叢 第三輯』

（歴史・文化財保護室）



▲ 詳細な記録を添えて整理された木箱